

1日・2日が休業日だったため、平成29年度は4月3日（月）にスタートしました。今日がちょうど10日目。この「校長便り」は昨年同様自分のペースで発行していくつもりです。HP担当の先生にお願いして、これまでより分かりやすい場所に載せてもらえることになったので、よろしければお読みください。まずは3日から今日までの行事等を、駆け足で紹介します。

3日（月）平成29年度の第1日目。

私事になりますが、定年まで後3年というタイミングで本校に赴任し、「津山商業からの21世型商業教育スタイルの発信」という大きな目標を掲げて学校経営を進めてきました。2年が経過した今、正直、目標達成までの道のりは遠く険しいものの後退はしていないと感じています。その証拠の一つが昨年度末に完成した報告書です。そこからは、先生方をお願いしている「主体的・対話的で深い学び」による指導と評価の一体化をチームとして目指す授業改善の方向性、カリキュラム・マネジメントの実践といった、これからの教育を先取りした取組が着実に進んでいること、そして何より「津商レインボー・プロジェクト」によって生徒が望ましい方向へ変容していることが明白に読み取れます。2年間、ホップ・ステップと積み上げた成果を糧に先生方と共に大きくジャンプする3年目にしたい、一人一人の生徒をもっと輝かせたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

新任者紹介の後、上のような挨拶で始まった職員会議。引き続いての学年団会議で午前が終了。

昼食後、職員室の大掃除と席替え、そして職員写真撮影です。今年度も2名の新採用の先生がいるので、閑谷学校で行われた新採用教員辞令交付式に出席後、本校に到着するのを待っての撮影となりました。

4日（火）各課会議、各教科会議、学力向上委員会会議、昨日に引き続いての学年団会議と、「会議だらけ」の1日です。でも全てが「今年度のうったて一最初の一步」を決める重要な会議。先生方、頑張ってくれました。

5日（水）校内は新任職員オリエンテーション。私は岡山東商業高校への今年度最初の出張でした。

6日（木）第2回職員会議の後、授業改善をテーマとする教員研修を行いました。授業改善に取り組んで3年目。「つしょうレインボー・プロジェクト」と銘打った国立教育政策研究所教育課程研究指定事業の2年目です。3日の会議挨拶で述べたとおり、従来の高校の授業観を根本から覆すような、今求められている指導のあり方、学力の捉え方に対応する方向への授業改善は、遅々とはしているものの着実に前に進んでいます。研修は、今年度の研修テーマの“主体的・対話的で深い学び”実現のための“言語能力”と“情報活用能力”に即した内容を、少人数のグループによるワークショップ形式で協議しました。学校経営計画書の先生達の目標は「生徒の“伴走者”として寄り添いともに学びながら進む」です。その第一歩が、この研修でした。



7日（金）は、この週で唯一会議等が設定されていない日。先生方は、来週からの本格的な平成29年度開始に向けて、準備に余念がありませんでした。

10日(月)。いよいよ生徒が登校して、午前中が親任式と始業式、午後から入学式です。「“学校”は、生徒がいて初めて命がかようものだ…」と実感する一日です。始業式・入学式には、それぞれ次のような式辞を語りました。

皆さんお早うございます。先ほどの新任式で、新しく御指導いただく先生の紹介も終え、いよいよ新年度のスタートです。

新3年、新2年となった皆さんが皆始業式に臨み、平成29年度が順調に滑り出せることを本当に嬉しく思います。2学期・3学期も加えると、私がこうして始業式で話をするのは今日で7回目です。振り返ってみると、1回目を除いて話の始めには必ず、今のような言葉を言っています。もちろん生徒全員が元気でいてくれることを喜ぶのは、心からの気持ちなのですが、今日は今まで以上にこの思いを痛切に感じています。春休みの間、日本国内では幼い命が無残に奪われたり、皆さんと同年代の若者達が自然災害の犠牲になったり、悲慘な事件の数々が起こりましたし、世界に目を向けると、複数の国々でテロとおぼしき事件が発生し、多くの死傷者が出ました。そんな中、不謹慎な言い方かもしれませんが、皆さんが元気で学校に戻ってきてくれることだけでも、本当にありがたい幸せなことだと感じられるからです。まさに「生きているだけで丸もうけ」、「元気で生かされているだけで幸せ」です。まずは、今美しく咲き誇り、精一杯その命を輝かせている満開の桜を見習って、自分たちの幸せをかみしめましょう。

さて、この「生きているだけで丸もうけ」は、明石家さんまさんがモットーとしている言葉で、娘さんの名前もこれを略して「いまる」とつけたことは有名です。またある脳科学者は、この考えは長生きの秘訣だとも言っています。

ただし、「生きているだけで丸もうけ」とは、だから何もしないという生き方ではないようです。この言葉の意味は「小さな失敗にくよくよするのはやめて毎日いいことばかりを考えて暮らそう」というもので、その「いいこと」というのは、「お金持ちになる」とか「高い地位に就く」といったことではありません。先ほどの脳科学者は、こうしたお金や地位などの表面的な欲望を追い求めると、脳は本来のエネルギーを失うと言っています。それは寿命を縮めることに繋がるでしょう。

では、望ましい「いいこと」とは何か。それは、生きていくプロセスを重視すること、「成長したい」「今よりも向上したい」といった思いだそうです。

新年度のスタートにあたって、「生きているだけで丸もうけ」を実践して長生きするため、自らの意志で、自分を成長させましょう。今の力を向上させましょう。今日からの1年間の中で、毎日、様々な形で、新3年生・新2年生それぞれに、その意志を実行するチャンスが沢山あります。

昨年度から引き続いて全校で行う「つしょうレインボー・プロジェクト」の数々の取組もその一つ。その中の、とりわけ大きなイベントには、11月の津商モールはもちろんですが、1学期末の音楽祭と2学期始めの自彊祭があります。津商ならではの学校行事の音楽祭と、全学年4クラスとなって初めての自彊祭を、皆さんがどんなふうに新しくするのか、どんなふうに自分たちの成長のチャンスとするのか、7つの力をどこでどのように身に付けるのか。今からわくわくします。

私たち教員は、そんな皆さんをしっかりバックアップします。皆さんの成長や向上を支え、導くことが、教員としての成長や向上です。一緒に「生きているだけで丸もうけ」を実践して、今、この時に生かされている幸せをかみしめましょう。

以上で、1学期始業式の式辞を終わります。

今日を待っていたかのように満開に咲き誇る校庭の桜に、春の深まりを感じるこの良き日、全本和由同窓会会長様をはじめ、多くの御来賓ならびに保護者の皆さまの御臨席を賜り、平成二十九年度入学式を、このように盛大に挙行できますことは、この上ない喜びであります。皆様には、心より御礼申し上げます。

只今入学を許可した一六〇名の新入生の皆さん、本当におめでとうございます。

ここからは、緊張で身を固くし頬を赤く染めながらも、本校を目指して積み重ねた努力が実を結んだ喜びと誇りに溢れ、晴れて入学を許可され、津商生となれた「幸せ」に浸っている皆さんの姿がよく見えます。

そんな皆さんを大歓迎する気持ちで一杯になりながら、今皆さんが浸っている「幸せ」について思いを馳せると、脳裏には、ある物語が浮かんできます。それは『青い鳥』という物語です。

「青い鳥」が、幸せの喩え、象徴としてよく用いられる言葉だということは、皆さんも御存知でしょう。その由来は、メーテルリンクという作家が書いた『青い鳥』という物語で、その中身は、チルチル、ミチルの兄妹が、幸せを運ぶという青い鳥を探して旅をする話だということを知っている人も多いのではないのでしょうか。

「知っている」という人は、この話のラストをこんなふうに思っていないですか。

遙か遠く、時間や空間を超えて様々な場所を旅したけれども、結局青い鳥を見つけられず、しょんぼりして家に戻ったチルチルとミチルは、我が家の鳥籠の中にいたくすんだ色の鳥が青く輝く鳥になっているのを見つけて「青い鳥はここにいたんだ」と気づいたところで終わる。つまりこの話は、幸せは、自分たちの身近な暮らしの中にある、それに気付く人が本当の幸せを手に入れることができるという教えを語っているのだと。

子供向けに書き換えられた本ではそうなっているものも多いのですが、実は原作のラストはそうではありません。そもそも『青い鳥』は物語ではなく戯曲、つまりお芝居の台本なのです。そしてラストは、チルチルが鳥籠を隣の家の子と取り合っているうちに、青い鳥は籠から逃げてしまうのです。鳥がいなくなり取り残された舞台の上で、チルチルは最後に観客に向かってこう言います。「だれかあの青い鳥を見つけた人は、ぼくたちに返してください。ぼくたちは、幸せに生きていくためにはどうしても青い鳥が必要なんですから…」このセリフとともに幕がおり、『青い鳥』のドラマは終わるのです。

つまりこのお話は、こんなふうに解釈できます。「人間は〈青い鳥〉という幻想や夢がなければ生きていくことはできない。だから、それを求めてさまざまな旅を繰り返す。しかし、それは遠いところに発見することはできない。やがて人間は、本当の幸せは、実は自分の身近なところにあったのだと気づく。しかし、それに気づいたときにはもう遅く、幸せの青い鳥は、そこにはいなくなってしまう。」

入学式という晴れやかな場の式辞には似つかわしくない内容になっているかもしれませんが、皆さんが「津山商業に入学できて幸せだ」と感じ、幸せの青い鳥がすぐ側にいると実感できている今だからこそ、皆さんに聞いてほしいのです。

ここまで紹介した『青い鳥』にまつわる話は、五木寛之という有名な作家の『青い鳥のゆくえ』と題された、五木さんの講演を記録した本に載っているものです。『青い鳥のゆくえ』を読むまで、メーテルリンクの『青い鳥』のラストを誤解していた私は、絶望的に暗い五木さんの「青い鳥」についての解釈に対して反論もできず、ただただ悲しい気持ちになりました。けれど、その後に述べられていた次のような言葉に、救われたのです。

「人間は幸せがなくては生きていけない、しかしいま、青い鳥は飛んでいってしまった。では、どうするか。人間は自分の手で青い鳥をつくらなければいけない。ひとりひとりが自分の手で、自分にとっての幸せというものを、私たちは自分の手でつむぎ出し、つくり上げ、それを自分の青い鳥として生きていかなければならないのだということを、メーテルリンクの『青い鳥』は、暗示しているのではないか…」

まさにそのとおり。人間にとっての本当の幸せの姿を、この言葉は示してくれていると思います。今、皆さんが浸っている「津商生になれたという幸せ」は、始めにいったとおり皆さん自身が、本校を目指して積み重ねた努力の結晶です。皆さんが自分の手でつむぎ出した「津商生」という青い鳥なのです。ただ「津商生になれた」ことだけに満足してしまい、これまでのような努力を怠ってしまうと、青い鳥は逃げてしまいます。もしくは青い輝きを失い、色あせてくすんでしまうでしょう。どうぞ今日から始まる日々の中で、今皆さんの手の中にある青い鳥を、「幸せ」を、さらに青く輝くすばらしいものに作り変えられるよう、努力を惜しまないでください。

今年で創立九十六年目を迎える本校には、日々努力を惜しまぬ津商生になるための心がけがあります。それは、校是、学校の道しるべである「自彊」という言葉が指し示す姿勢です。「自彊」は、『易経』という中国の古い書物にある言葉で、永久に変わらない天のルールによって流れる自然を見習い、努力することを休まず、常に自分を鍛えなくてはならないという意味です。狭い人間の世界ばかりに目を向けるのではなく、ましてや自分の損得だけにとらわれることなく、地球規模の広い視野を持ち、大自然の営みを手本にして、自らを向上させようと自分自身で頑張ることが「自彊」の姿勢です。

「幸せ」の青い鳥はひとりひとりの手でつむぎ出すものと言いましたが、チルチルがミチルとともに青い鳥を求めたように、幸せを見出すためには、仲間と手を携えることが必要です。今日、この場で出会った一五九人の同級生を仲間に、二年生、三年生の先輩達、私たち教職員とも一緒になって、豊かな自然溢れる美作の地にある幸せの青い鳥を、より一層輝かせていきましょう。

保護者の皆さまにひと言、御挨拶を申し上げます。本日は、お子様の御入学、誠にありがとうございます。『青い鳥』の物語に喩えるなら、私共教職員は、本日より、お子様達と手を携えて幸せの青い鳥を求める旅に出ます。そして三年後の卒業式に、ひとりひとりが、その手に、より一層青く輝いて自分の人生を照らす幸せの鳥を抱いて本校を巣立てるよう、お子様を立派に成長させることをお約束いたします。ただそのためには、学校と保護者の方々との間の信頼関係が不可欠です。どうか、本校の教育方針を御理解いただき、学校と家庭がそれぞれの役割を果しながらも連携を密にすることで、お子様の伸びやかな成長への御支援と御協力を賜りたいと存じます。

皆さん、いよいよ本校での青い鳥を求める旅が始まります。

海路は遙けしいざいざ共に 鍛えよ腕を磨けよ心

これは、校歌の二番に謳われている津山商業という船に乗り込んで旅する生徒達への応援メッセージです。この歌詞のとおり、三年間の長い旅路を、仲間とともに、体を鍛え心を磨いて、意気揚々と進んでいくことを期待して、式辞といたします。

例のごとく「産みの苦しみ」の果ての式辞です。

もっと格調が高く中身が深い言葉を紡ぎたいのですが上手くいきません。が少なくとも、生徒への私の願いや思いを込めることはできているつもりです。ほんの少しでいいから、頭の隅にとどめてくれると嬉しいのですが…。



11日（火）。対面式の3学年とも課題テスト。恐らく多くの生徒諸君が、「学校が始まった～～」と実感したのではないのでしょうか。

午後、1年生がロングホームルームの間、2年生・3年生は転退任式に臨みました。



今年度は9名の先生方が、本校を転退任されました。そのうち式には、尾崎基文先生（理科）、大西純一先生（保健体育）、則本一久先生（英語）、仲矢憲正先生（商業）、原田和則先生（商業）の5名がお越しくださいました。

去られる先生方を御紹介した後「先生方、津商の生徒への最後の御指導をよろしく」との私のお願いに答えて、皆さんが、愛のこもった厳しくも優しい

いお言葉を、沢山の忘れられない思い出と共に残してくださいました。先生方、本当に本当にありがとうございました。

12日。本校が長年続けている「朝読一朝の読書」が始まりました。「始業前の10分間、全校の生徒も教職員も自分の好きな本を読む」というこの取組。私は大好きです。可能な限り、私も本を持参してどこかのホームルームに入り、本の世界に10分間浸りたいと思っています。

始業後は、1年生はほぼ終日ロングホームルーム、2年生は学科別講演会・ロングホームルーム・総合的な学習の時間、3年生は授業と進路テスト。各学年らしいメニューでの学校生活のスタートです。

私は午前中、1年生のロングホームルームで「3つの式辞に込めたもの」と題して話をさせてもらいました。入学式の式辞に込めた「みんな幸せであり続けてほしい」との思い、一昨年の入学式の「人間同士の繋がりが持つ“束縛”」という一面。それ込みで、“絆”を大切にしてほしい」との願い、本当の意味での「生きているだけで丸もうけ」の実践を説いた始業式の言葉です。時間が少し余ったので、大好きな中島みゆきさんの「糸」の一節をアカペラで歌わせてもらいました。下手な歌に拍手してくれた1年生のみんな、感謝です!!

明日からは、2・3年生はほぼ通常授業。戻って来た「日常」の中で、しっかり前向きに自らを高めてほしいです。

1年生は吉備少年自然の家での一泊二日の宿泊研修です。春とはいえ気温は不安定で、夜は特に冷え込みます。風邪を引かないように気をつけながら、1年団の先生達との絆を深め、中学生から「津商生」になって帰ってきてください。

平成29年4月12日